



人権・同和教育だより 第3号

平成27年12月2日

12月是人権週間です

今回はクイズ形式で始めたいと思います。

その1) 今年度のゆるキャラグランプリでは、わが県の“しまねっこ”は惜しくも10位でしたが、皆さんは“まもる君とあゆみちゃん”をご存知ですか？

⇒アンパンマンのやなせたかしさんがデザインした人権イメージキャラクターで、名字は人KENさんです。ということで、12月4日から10日までは人権週間、12月3日から9日までは障がい者週間となり、12月是人権を考える月間です。

その2) なぜ人権週間は12月なのでしょう？

⇒1948年の国連総会で「人権宣言」が採択された日が12月10日で、この日を人権活動を推進する「人権デー」と定めたからです。わが国も1949年から「人権週間」が定められ、全国で人権啓発に関連した行事が行われています。

その3) では、今年のテーマは何でしょう？

⇒「みんなで築こう人権の世紀～考えよう相手の気持ち、育てよう思いやりの心～」です。

**みんなで築こう
人権の世紀**

考えよう相手の気持ち
育てよう思いやりの心

人権推進委員はあなたの街の仲間パートナーです。
人権に関わる活動でお悩みの方は、人権推進委員または下記まで。

みんなの人権110番	0570-003-110
子どもの人権110番	0120-007-110
女性の人権ホットライン	0570-070-810

インターネット人権相談受付窓口

パソコンから <http://www.jm.jg.jp/jinken/jinken113.html> [インターネット入電受付] 検索

携帯電話から <https://www.jinken.go.jp/soudan/mobile/001.html>

◆人権啓発デジタルコンテンツ [人権啓発デジタルコンテンツ] 検索 ◆人権ライブラリー [人権ライブラリー] 検索

http://www.jm.jg.jp/jinken/jinken04_00041.html <http://www.jinken-library.jp/>

法務省人権推進局・全国人権推進委員連合会

(法務省のHPより)

益田市でも人権問題に関連したイベントや映画会が計画されていますので、ご紹介したいと思います。

●昨年本校でも公演された「地球のステージ」が**12月5日(土) 14:00~17:00**

(高校生以下無料/大人前日¥1,000・当日¥1,200)

●ハンセン病をテーマにした映画「あん」が**19日(土) 10時、14時、18:30から**

(学生¥500/一般前日¥1,000 当日¥1,200)

いずれも**グラントワ小ホール**で開催されます。昨年地球のステージを見逃した方、ライブコンサートを楽しみながら人権問題を考えることができますよ。また、「あん」はドリアン助川の同名小説待望の映画化です。ハンセン病問題を考えるよい入口になるとと思います。



つながるよ! 益田と世界、そして東北。
考えよう! 今、私たちにできること。

地球のステージ 益田 2015

平成27年 **12/5(土)**
開場 14:00 終演 17:00
大人 1,000円(当日券 1,200円)
高校生以下無料

14:30- 青年海外協力隊 活動報告
15:00- 地球のステージ1 十東日本大震災復活篇
NPO法人地球のステージ主催 桑山 紀彦

島根県立 **いわみ芸術劇場 グラントワ小ホール**
地球のステージ広場

■主催:地球のステージ益田実行委員会 問合せ/TEL.090-4898-5301
■協力:国際ボランティアセンター益田 益田アカドクメンツ、上記実行委員会
■共催:島根県青年海外協力隊 島根県高齢化対策委員会、島田市教育委員会、山陰中央交通社、ひまわりセンター
©Web: <http://earthstage.blog62.fc2.com/> 公益信託しまね女性ファンド助成事業



やり残したことは、
ありませんか？

樹木希林
永瀬正敏
内田伽羅
市原悦子

監督 脚本 水戸黄伝
原作・ドリフ助川 あん(小説)
主題歌 春風 榊原まゆみ
出演 島根県立いわみ芸術劇場

たくらんの涙を拭いて、
生きていく意味を思いける。

あん

an-movie.com

♣長島愛生園を訪問して

さてHP掲載のみとなった「人権・同和教育だより*1 学期編」で報告したように、7月上旬にPTA正副会長と人権・同和教育担当者、また下旬には校長先生が相次いで長島愛生園を訪れ、ハンセン病問題について勉強してきました。今回は大畑PTA副会長さんと、校長先生の感想を掲載します。

♣PTA副会長 大畑正一さんの感想

去る7月10日、水津会長と私は、岡山市で開催された第57回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会の全日程の研修を終え、夏空がまぶしい翌朝JR赤穂線の邑久駅で本校の有川先生と待ち合わせ、人権・同和教育「PTA活動」育成事業の一環として瀬戸内市の国立療養所長島愛生園を訪ねました。長島愛生園はハンセン病の日本初の国立療養所として昭和5年に設立されましたが現在では同所の運営する「ハンセン病の歴史をめぐる半日の旅」歴史館・歴史回廊を見学する事が出来ます。私達は今春、人権同和教育の研修事業として既にこの施設を県内他校多くのPTAが視察しているという事を聞き、今回岡山で開催される中国・四国地区高等学校PTA連合会大会の参加にあわせ是非ここを訪ねて見たいと思っていました。

邑久駅からは愛生園の見学送迎バスに乗車し到着までの30分間施設紹介DVDを視聴します。そのDVDはハンセン病問題についての正しい理解を深めるため、かつての隔離政策の状況、患者やその家族が受けてきた偏見・差別の実態、その生活などが描かれ、過去この様な事が私たちの身近にあった事実を知り愕然としました。

紹介DVDの中にあるアニメでは少年がある日、ハンセン病を発病し、その発病後、末梢神経が侵され、知覚まひによって温度や痛みを感じなくなり、火鉢で暖を取りながら読書中、火鉢の熱さに気付かず手に大火傷を負います。翌朝、そのあまりに酷い火傷を仲間である同級生に見られてしまいハンセン病を発病したのではないかと通報され、その後本人は隔離されました。住いは井戸の中までも隅々消毒され、家には心無い人からの投石、兄弟家族は人々から感染を恐れられ、やがて完全に社会から排除され孤立していきます。少年の歩く後をすぐ消毒しながら人々の前を連行する場面や、やっと施設に到着したかと思うと彼らは収容所で逃亡阻止のため所持金や所持品の一切を没収されたあげく全裸にされ、消毒の為、劇薬であるクレゾールの浴槽につけられる場面、そしてその後の彼らは二度とそこから生きて出ることにはなかったと締めくくられています。

そのDVDが終わるころ私たちを乗せたバスはようやく施設のある島と本土を結ぶ橋に差し掛かりました。瀬戸内海に浮かぶこんな穏やかな美しい島で過去悲惨で悲しい歴史があったかと思うとそれはもう筆舌に尽くしがたい気持ちでありました。島に続く橋を渡りその歴史館を訪れ、かつて少年たちが実際に入れられたクレゾールの浴槽もこの目で見ましたし、この島で亡くなりその後も差別・偏見によって死後も故郷に帰ることの出来なかった3500名余りの御霊が祀られる納骨堂で献香させていただきました。この島にある監房跡、家族や社会との別離となった棧橋なども現在もそのままが残されており訪れた我々にその悲惨な歴史を語りかけました。

ハンセン病は昭和20年頃になって特効薬が出来、完全に治癒できる病気になったと言われます。しかし驚くことにその誤った隔離政策は昭和初期制定時から平成8年「らい予防法・廃止」まで続けられたそうです。

今回施設を訪れ、ハンセン病についての理解も深まりました。願わくは来所した私達に続き、少しでも多くの人々がここを訪ねこの病気への誤解をなくし間違った差別や偏見のない社会に早く近づける事を望みます。

今年も多くの子供たちがいじめや差別によって悩み苦しむ、そしてその苦しみにから自殺に追い込まれる悲しい事件が数多く発生しています。毎日の様に、ライン、Facebook、ブログなどに、誹謗・中傷を書き込む「ネットいじめ」なども現代特有の”いじめ”として多く報告されています。

我々は今回この施設を訪ねることにより、改めてこの社会からいじめや差別を少しでもなくし次代を担う子供たちが苦しむことなく、安心して学び、健やかに成長することができる地域の実現を目指して行きたいと切に感じた一日でした。

♣校長先生の感想

「この島を忘れないでほしい」

7月28日、やっとあの島へ行く機会を得た。岡山県瀬戸内市に浮かぶ島で、かつてハンセン病患者が中国地方一円から強制隔離された国立療養所長島愛生園が置かれている島である。島根県教育委員会の研修事業に参加し、浜田から5時間かけて着いた島には、今は短い橋が架かっていて車はあっという間に渡る。わずか幅約30mの海峡は隔離と差別の非情を象徴し、この邑久長島大橋は交流と反差別の象徴でもある。

1930年、初の国立療養所が設けられて以来、幾多の人が「逃亡」を試みては速い潮流に飲まれたといわれる。望郷の一念の強さと隔離の非情さを想像する。それから55年後にやっと完成した橋が「人間回復の橋」と呼ばれる由縁である。

かつて不治の病と恐れられたハンセン病は、戦後特効薬によって完治可能になったにもかかわらず、国の政策によって故郷と家族から強制的に隔離され、それはつい20年前まで続いた。患者（回復者）は囚人扱いされ、残された家族は近隣住民から酷く差別された。「解放」されたその時には、既に帰るべき故郷もなく、現在の愛生園は「終の棲家」となっている。子どもの時に家族と故郷を失った人は園内の学校に通い、入所者同士で結婚された方も多いが、世代間隔離のため断種や中絶を強制されたと言われる。



長年私が思い描いていたより島は大きく、愛生園は広大な敷地に明るい雰囲気施設の施設が広がっていた。益田出身の入所者にお会いできたが、「今は幸せ」と笑っておられた。懺悔の気持ちで向かった島ではあるけれど、その笑顔と青く広がる海と空に少し希望を感じた。が、その後納骨堂にお参りする時に突然の豪雨に見舞われ、我に返った。この島を忘れてはならない。

(写真は長島愛生園自治会のHPから)